

特別企画シンポジウム実施報告



特別企画シンポジウム報告

事業部会/企業交流企画委員会

1. 概要

2023年1月20日(金)、特別企画シンポジウムを日本TRIZ協会後援、(一財)日本規格協会協賛でリモートにて開催した。今回は企業交流会から派生させた形で行った。

テーマは「品質工学展開の方向性を探る～経営課題達成を目指して技法融合の仕組みへ～」とし、QFDやTRIZと品質工学の技法を融合する効果について、最新の取り組みの発表と討論を行った。

品質工学会、日本TRIZ協会、日本規格協会などから119名の参加があった。

まず、椿会長から「今回のプログラムは、開発設計プロセスの考え方が、TRIZ協会にも品質工学会にも産業界を中心として、脈々と繋がっていることが実感でき心強く思います。日本には、この種の管理技術に関わる学協会が多々あり、日本が置かれた困難を打開するには、これらの団体が結集して産業界や国民にあるべき姿を示し、日本の産業界や社会を動かすことが必要ではないでしょうか。それが、社会のためにもなるし、学協会の活動への支持に繋がるのではないかと考えます。今回の特別企画シンポジウムが、両団体にとってそのような活動の端緒となることを願うばかりです。」との挨拶を皮切りに、会は開始された。

2. プログラム内容

2.1 特別講演「欧米におけるデザイン・フォー・シックスシグマ活動」

ASI-CG 田口伸

『Japan as No.1』が出版されて1980年代に欧米企業は日本企業のTQMを実直に学んだ。それは全社的に品質改善に取り組むことであった。当時、このような活動は欧米企業ではほぼ皆無であった。欧米企業に適したシックスシグマが誕生し、90年代から広まったのである。現状のコストダウンを図るシックスシグマ活動に対して、設計開発テーマのための概念がDesign for Six Sigma (DFSS)であり、DFSSのテーマを実行するプロセスはIDDOVという5段階のプロセスである。

2.2 基調講演「技術開発プロセスを設計するプラットフォームT7の紹介」

QE Compass代表 細川哲夫

品質工学が目指してきたロバスト性確保の重要性は変わらないが、事業を成長させるためには、お客様の期待を超える感動品質を備えた製品を継続的に提供することが必須となっている。そのためには、効率性と創造性を両立した新たな技法や仕組みが求められている。それを実現するのが“T7”である。

2.3 事例発表

(1) TRIZチュートリアル～ヒット商品のアイデアはTRIZにある～

オリンパス(株) 三木基晴(日本TRIZ協会幹事)
顧客のニーズに応じて、魅力的な商品、サービス